

NIIGATA REFEREE SUMMIT 2025 参加レポート

開催日時

2025 年 7 月 19 日（土）・7 月 20 日（日）

会場

- ・7 月 19 日：ほんぽーと中央図書館
- ・7 月 20 日：新潟医療福祉大学

使用大会

天皇杯・皇后杯新潟県予選会
男子決勝／女子決勝

受講者数

- ・7 月 19 日：28 名
- ・7 月 20 日：30 名



講師

- ・平出 剛 氏（栃木県・S 級ライセンス・1 級インストラクター）
- ・加納 康平 氏（神奈川県・S 級ライセンス・1 級インストラクター）

【講義・研修内容】

7 月 19 日（座学）

加納康平氏による座学講義が行われた。テーマは「良い審判とは何か」と「コミュニケーションが拓く審判の可能性」。

加納氏は、審判として自分なりの審判像（ビジョン）を持つことの重要性を強調していた。「何かあればあの人に話せばいい」「あの人がいれば安心できる」と思ってもらえるような審判像を目標に掲げることが、自身の成長への近道だと語っていた。

また、試合中のコミュニケーションについては、コーチと選手の話聴く（傾聴）姿勢を大切にすることが示された。嘘はつかず、間違いは素直に認める姿勢が信頼につながる。コミュニケーションはプレゼンテーションの一部であり、「目配り・気配り・心配り」ができる審判を目指してほしいとの言葉が印象に残った。

7月20日（実技・ポストカンファレンス）

大会の男子決勝は平出氏、女子決勝は加納氏が担当。試合後にはポストカンファレンスの中で講義が行われた。

○講習ゲームの振り返り

・男子決勝 IR：平出 氏（コメント）

表示物のミスがないように徹底。ツーモア・ネクスト・OKサインは単なるサインではなく、「処置ミスを防ぐための手段」であり、見せ方・伝え方も含めたプレゼンテーションである。また、ローテーションやポジションアジャストについては「自分は何を見に行くのか」という目的意識を持ってメカニクスを遂行することが重要である。タフとラフの見極めについても基準を持ち、判断に自信を持つことが求められる。さらに笛の「音色」や「間」の使い方（ケイデンス）の工夫も試合のコントロールに影響する。

・女子決勝 IR：加納 氏（コメント）

ゲーム序盤にゲームのポイントとなる選手を掴んでおく事が重要である。状況に応じて、その選手と重点的にコミュニケーションを図る。プライマリエリアのレフリーのアンクルがなく、アンクルを持っていたセカンダリレフリーが判定を行った場面があったが、このような状況では、プライマリレフリーは焦ったり動揺したりせずわからないプレーには無理に判断しないことが大切である。自分の判定に責任を持つためにも「わからない」と冷静に割り切ってメンタルを保つ姿勢が求められる。また、表示物にミスがいくつかあった。目的を持ったプレゼンテーションで丁寧な動作を意識する事が重要。

○TLG 担当としてシーズンを振り返り

・平出 氏 コメント

今シーズンはBリーグファイナルの担当を目指して取り組んできた。

また、自分より若い世代であっても、加納氏のように自身の改善点を率直に指摘してくれる存在の重要性を改めて感じた。周囲の意見を素直に受け止めることで自身の成長につながっていると実感したという。

来シーズンが自身のラストシーズンとなることも明かし、今まで散々色々なことを言われてきたが、緊張感のある試合の中でも選手やコーチとラフに会話できる場面が増えた事を、これまでの経験の成果として語った。



○受講生へ助言

・平出氏から受講生への助言

平出氏は受講生に対し、審判として技術を高めるためには、担当した試合を必ず振り返り、ノートなどに記録しておくことが重要と強調した。試合後に感じたことや気づきをそのままにせず、文字に起こしておくことで、いつでも見返せる自分だけの教科書を作ることができる述べた。

また、B リーグを目指しているレフリーには英会話は早いうちから学んでおいた方がいいと助言。将来的に国際試合やトップカテゴリーを目指すなら、早い段階で語学力も準備しておくことが大切だと話した。

・加納氏から受講生への助言

加納氏は自分自身もこれまで多くの失敗を経験してきたと前置きした上で、失敗を認め、割り切り、そこから立て直し改善してきたことが今の自分につながっていると語った。そして、自分の人柄を生かしながらも言うべきことはしっかりとと言える審判員になることがコート上での存在感に直結すると受講生に助言した。

また、県内の上級審判員には、自らがアップデートし続ける姿勢を見せることが上級審判員を目指す後輩たちへの手本となると強調。言葉だけで育成するのではなく、実際の現場で行動と姿勢を示していくことが、良い組織づくりにつながると述べ、現場での背中です指導の重要性を受講生に伝えた。